

## パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	i-くさのねプロジェクト
支援対象者・エリア	東北（主に宮城県）
企画開催地	宮城県
企画名称	被災地域交流事業
実施期間	H30. 4 ~ H31. 3

### 支援活動の目的・内容・感想

（どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など）

震災当時、私は仙台市在住で子どもは2歳と4歳でした。

沿岸程の被害はなかったものの、住んでいたマンションは全壊判定で直後は避難所に避難をしました。その時手巻きのラジオで福島原発の事故を知り、万一の為にと実家の佐賀県に母子で一時避難をします。避難先の佐賀県では必要な物は手に入れます。東北の友人知人から、衣類や乾電池、レインコート、水、マスク、子どもの食べるものなどを送って欲しいと連絡が途絶えず居ても立っても居られずにくさのねの支援活動を始めました。

半年後に仙台市に帰り、沿岸部などで民生委員やお母さんたちの取り組む地域支援活動をサポートする役割として共に活動を続けています。

現場で気づくことは、表には見えづらい裏方の作業をされている方々のお蔭で地域のコミュニティが円滑に保たれているという事です。労う機会も場も少なく、そんな日頃から頑張っておられる方々を労いたい。という思いが強くあります。

i-くさのねプロジェクトが関わる音楽交流イベントは、自治体や地域の団体と共に取り組むことにより、世代や在住地、所属を超えた多数の人が集まり相互の取り組みや被災地で作られた作品に出会い開催後の交流や発展に繋がります。参加者も、企画者も出演者も平場で交流をし、繋がる場です。

協力者であるプロのステージは、日頃多忙なブース出展者、民生委員等地域を裏で支える方々への労いのひと時ともなっており、毎年楽しみにしてくださる方が多いです。

発災から8年が経つ今、ハード面での復興は着々と進み、街並みからは震災があったことがイメージできないほどですが、被害に遭われたという事実は何年経っても消えることはありません。

i-くさのねプロジェクトが進めている交流事業は、再会の場であり、労いの場であり、楽しむ場であり、静かに当時を思いかえす場もあります。「人の集う場」をつくる過程により緩やかなネットワークを作り続けて行くことの必要性を年を追うごとに感じています。

繋がりが広がり、地域や社会でのネットワークが広がることは予期せぬ多様な変化をもたらし地域の大きな財産となります。

## 活動の様子（写真など）



















